

中国 IT 市場 ナビゲーター

(53) ガソリン高騰でカーナビ人気

野村総研(上海)咨询有限公司

◇燃料高騰と渋滞が悩みの種

世界的な原油価格高騰の影響を受け、原油の半分を輸入に頼る中国政府は6月20日、ガソリン・軽油の基準価格を1トン当たり1000元、航空燃料は1トン当たり1500元引き上げることをついに発表した。これに伴い上海市内のガソリンスタンドでは、93号ガソリン（オクタン価93のガソリン）は1リットル当たり5.19元から6.05元に、97号は5.51元から6.42元にそれぞれ上昇した。また急速に拡大しつつある個人の乗用車保有に道路建設が追い付かないため、現在中国の各都市で道路渋滞がますます深刻化しており、中国のマイカー利用者にとって、ガソリン高騰と交通渋滞は悩みの種になっている。

このようなことを背景に、いかに効率的なルートを走り、ガソリン代を節約するかが、車を保有する人たちにとって最も高い関心事となった。その解決策として、全地球測位システム（GPS）を利用したカーナビゲーションに対する消費ニーズが一気に高まっている。

国家統計局が2月に発表した「2007年国民経済および社会統計広報」によると、同年末の個人用乗用車の保有は1522万台であり、そのうちカーナビを搭載した車は全体の10%弱となっている。現状ではわずかに120万台程度という普及状況であるが、急拡大している中国自動車市場で、市場は今後さらに大きく広がっていくと予測されている。

◇市場は「四分五裂」

中国国内では現在個人用カーナビのメーカーは300社を超え専門メーカー以外に家電（ハイアール、新科）、携帯電話（ノキア）、MP3音楽プレーヤー（紐曼）などのメーカーも続々と市場に参入し、IT製品販売チャネル、家電量販店、自動車アフターサービス市場であふれている。例えば上海市内のデジタル製品の量販店をいくつか回ってみると、多くの店舗がカーナビを販売。中には1セット数百元のものもあれば、6000元の高額商品までさまざまなものが売られている。

市場が混乱している理由としては、販売価格やバージョンアップ費用の安い海賊版が市場全体の健全な発展を脅かしていることが挙げられる。もう一つには統一規格が存在しないため、結果的に付加価値の低い、同レベルの製品ばかりが市場にまん延していることだ。

◇合理的価格+サービスが重要

最近注目されている「**羸途**」という製品は、B to C（企業消費者間）の電子商取引（EC）やダイレクトメール（DM）などの直接販売方式で売られており、中間コストの多くを省くことで、同種製品の半値以下で販売されている。安いながらも「五つ星」のアフターサービスを提供することで、消費者に大きな反響を呼んでいる。

羸途は地図情報を随時アップグレードし、常に最新の交通情報を提供するだけでなく、販売・サービス・修理などの情報が記載される専用パスポートを製品ごとに作り、消費者に対し1対1のアフターサービスを提供しているのである。購入時には専門技術員が自宅を訪問し、最低で15 - 30分の指導を行う。さらに機械本体に故障が起きて25分以内に解決できなければ、その場で新しい商品と交換することを保証している。相次ぎ開発される新機能の同種製品に市場で勝つためには、顧客が最も望むサービスを提供することが差別化要素となってきているのである。

（野村総研（上海）咨询有限公司：主任コンサルタント 許文）